千葉市企業動向調査（第 20 回/2026 年度第 2 回）の概要

1. 調査目的

千葉市内の企業や事業所の業績の推移やビジネスの方向性、課題などを把握することにより、効果的な支援策等を企画する際の一助とするため、アンケート調査を「企業動向調査」として実施する。

2. 調査対象

千葉市に本社を置く企業とする。調査対象数は 900 件とし、総務省・経済産業省「令和 3 年経済センサス活動調査」における千葉市内の企業数の業種別及び規模別の割合に合致するよう、総務省の事業所母集団データベースより業種・規模毎に無作為抽出した。

3. 調査時期

2026 年 8 月 17 日（月）～9 月 4 日（金）

4. 調査方法・件数

先の方法で抽出された企業に調査依頼状を郵送し、WEB または同封した紙の調査票での回答を依頼した。

5. 回収件数

配布件数 900 件、有効配布件数 887 件

回収数 542 件（郵送 293 件・WEB249 件）（回収率 60.2%・有効回収率 61.1%）

6. 調査機関

株式会社東京商工リサーチ　千葉支店

7. 本資料を読むに当たっての注意点

○BSI（Business Survey Index）とは、前期と比較した調査時点における景気の「方向性」を示した景況判断指数であり、景気の足元及び先行きを捉えることができる指数（業況等に対する判断において、「良い（増加）」と回答した割合から「悪い（減少）」と回答した割合を引いた指数）である。

○DI（Diffusion Index）とは、調査時点における景気の「現状（水準）」を示した景況判断指数であり、足元の景気の動向を捉えることができる指数（業況等に対する判断において、「良い（増加）」と回答した割合から「悪い（減少）」と回答した割合を引いた指数）である。

○BSI、DI の前期、今期、来期、来々期の各期間は以下のとおり。

前期:2026 年 1～3 月期 今期:2026 年 4～6 月期 来期:2026 年 7～9 月期 来々期:2026 年 10～12 月期

○従業員規模別の区分については、中小企業基本法の定義において卸売業、サービス業、小売業で小規模事業者とされる「5 人以下」、製造業その他で小規模事業者とされる「6 人～20 人」、中小企業である「21 人以上」の 3 つの区分としている。

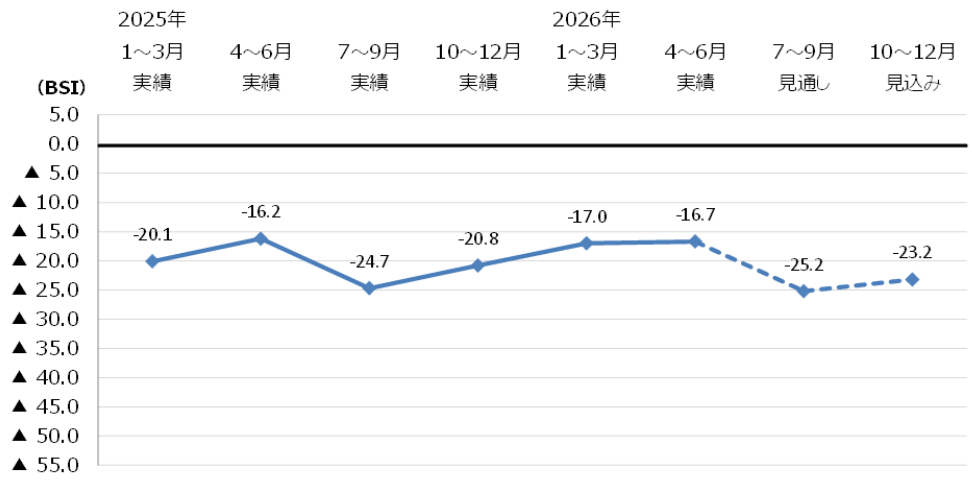
○BSI の天気マークの基準は以下の図のとおり。

 20.0 以上  19.9～6.0  5.9～0.0  ▲0.1～▲5.9  ▲6.0～▲19.9  ▲20.0 以下

■千葉市内企業の景況

1.　業況判断　業況判断 BSI は、▲16.7 と前期▲17.0 から 0.3 ポイント増加した
来期は今期から 8.5 ポイント低下する見通し

【業況判断 BSI】（良い%－悪い%）



【従業員規模別、業種別動向】

		2025年10～12月 前期実績	2026年4～6月 今期実績	2026年7～9月 来期見通し	2026年10～12月 来々期見込み
規模別	5 人以下	▲ 19.4	▲ 22.2	▲ 32.2	▲ 30.2
	6 人～20人	▲ 10.3	▲ 5.4	▲ 16.2	▲ 17.6
	21人以上	▲ 13.6	▲ 5.3	▲ 5.2	1.3
業種別	製造業	▲ 20.0	▲ 21.5	▲ 35.8	▲ 24.4
	非製造業	▲ 16.8	▲ 16.4	▲ 24.7	▲ 23.4
	建設業	▲ 12.1	▲ 25.3	▲ 24.2	▲ 26.6
	運輸・通信業	▲ 7.7	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 23.1
	卸・小売業	▲ 19.2	▲ 27.1	▲ 48.4	▲ 39.8
	飲食・宿泊業	▲ 15.8	▲ 5.0	▲ 35.0	▲ 25.0
	サービス業	▲ 20.4	▲ 10.8	▲ 18.4	▲ 18.5
	その他非製造業	▲ 16.5	▲ 8.5	▲ 13.2	▲ 14.1

※前期から今期、今期から来期にかけて BSI（良い%－悪い%）で 10 ポイント以上差がある項目については、矢印を表記している。

2. BSI・DI 推移　売上 BSI は、▲12.4 と前期▲12.9 から 0.5 ポイント増加した
経常損益 BSI は、▲13.2 と前期▲15.9 から 2.7 ポイント増加した

項目	前期から今期の推移と先行きの見通し
①売上 BSI （増加%ー減少%）	【今　期】▲12.4 と前期から 0.5 ポイント増加（同様で推移した） 【先行き】来期は▲23.3 と大きく低下し、来々期は▲21.7 と同様で推移する見通し
②経常損益 BSI （好転%ー悪化%）	【今　期】▲13.2 と前期から 2.7 ポイント増加（低調感がやや弱まった） 【先行き】来期は▲23.9 と大きく低下し、来々期は▲23.5 と同様で推移する見通し
③資金繰り BSI （好転%ー悪化%）	【今　期】▲12.9 と前期から 2.0 ポイント増加（窮屈感がやや弱まった） 【先行き】来期は▲16.5 とやや低下し、来々期は▲17.0 と同様で推移する見通し
④人材過不足 DI （過剰%ー不足%）	【今　期】▲20.5 と前期から 3.6 ポイント増加（不足感がやや改善した） 【先行き】来期は▲21.6、来々期は▲21.9 と同様で推移する見通し
⑤生産設備 DI （過剰%ー不足%）	【今　期】▲10.0 と前期から 4.4 ポイント低下（不足感がやや拡大した） 【先行き】来期は▲9.5、来々期は▲8.4 と同様で推移する見通し
⑥営業用設備 DI （過剰%ー不足%）	【今　期】▲5.7 と前期から 0.9 ポイント増加（同様で推移した） 【先行き】来期は▲5.4、来々期は▲5.8 と同様で推移する見通し
⑦国内需要 BSI （拡大%ー縮小%）	【今　期】▲15.5 と前期から 2.4 ポイント低下（減少幅がやや拡大した） 【先行き】来期は▲20.8 と減少幅がやや拡大し、来々期は▲19.1 と同様で推移する見通し
⑧仕入価格 BSI （上昇%ー低下%）	【今　期】46.5 と前期から 1.6 ポイント増加（同様で推移した） 【先行き】来期は 45.4、来々期は 44.1 と同様で推移する見通し
⑨販売価格 BSI （上昇%ー低下%）	【今　期】21.8 と前期から 6.2 ポイント増加（上昇傾向が大きく強まった） 【先行き】来期は 20.2 と同様で推移し、来々期は 18.2 と上昇傾向がやや弱まる見通し
⑩人材採用 DI （積極的%ー消極的%）	【今　期】▲28.3 と前期から 2.3 ポイント増加（消極性がやや弱まった） 【先行き】来期は▲28.8、来々期は▲28.2 と同様で推移する見通し

【主要項目 BSI の天気図】

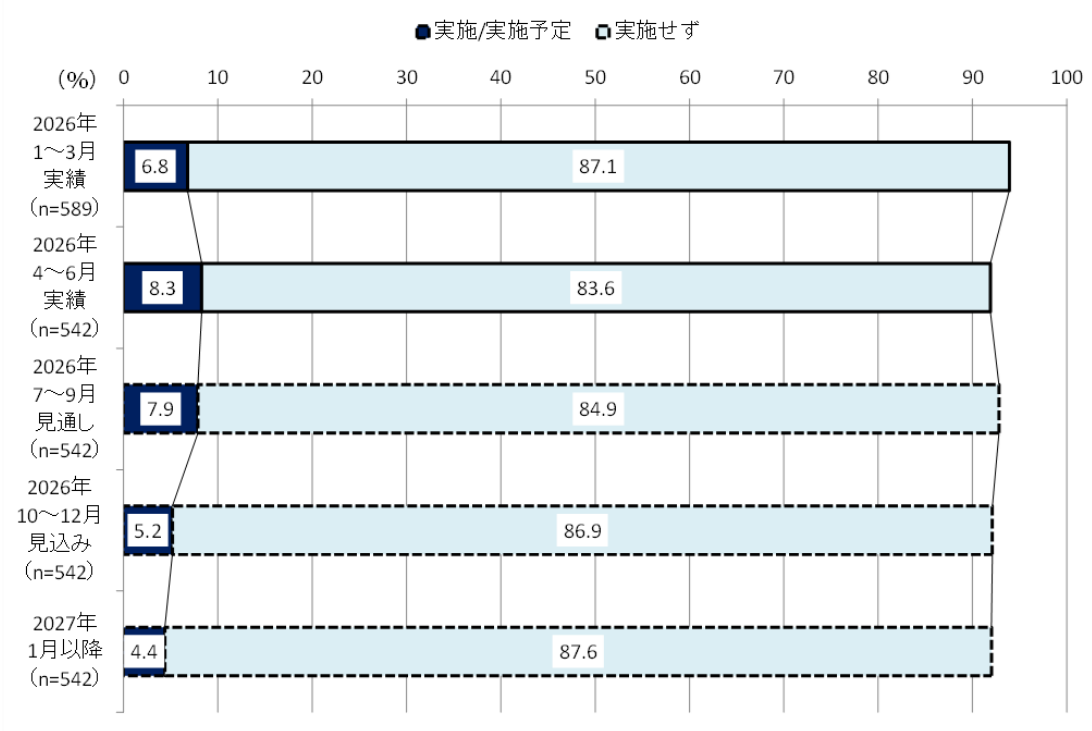
	2026年1～3月 前期実績	2026年4～6月 今期実績	2026年7～9月 来期見通し	2026年10～12月 来々期見込み
売上	 ▲ 12.9	 ▲ 12.4	 ▲ 23.3	 ▲ 21.7
経常損益	 ▲ 15.9	 ▲ 13.2	 ▲ 23.9	 ▲ 23.5
資金繰り	 ▲ 14.9	 ▲ 12.9	 ▲ 16.5	 ▲ 17.0

※「人材過不足」「生産設備」「営業用設備」はポイントが 0 に近い方がよい項目であり、天気図として記載することが不適当であるため作図しない。

※「国内需要」「仕入価格」「販売価格」「人材採用」は主要項目ではないため、作図しない。

3．設備投資に関する現況　「実施/実施予定」と回答した企業は、8.3%と 1.5 ポイント増加した 2026 年 7～9 月以降は減少傾向で推移する見通し

【設備投資】



4．必要な支援や千葉市に期待すること

○現在必要としている支援やサポート、千葉市に期待することについて自由記入方式で聞き、回答を災害対策本部内容別に整理した。

○現在必要としている支援やサポートについては、「物価高対策、燃料費等支援」が 19 件と最も多く、次いで「事業資金支援」が 17 件、「雇用支援」が 8 件となっている。

○千葉市に期待することについては、「事業資金支援」が 19 件と最も多く、次いで「物価高対策、燃料費等支援」「まちづくり、人口増加、経済活性化」がともに 14 件となっている。

（単位：件）

	事業資金支援	支援制度の拡充	情報提供	雇用支援	物価高対策、燃料費等支援	被災した企業への支援	まちづくり、人口増加、経済活性化	賃上げ支援	減税	その他
必要な支援やサポート	17	7	4	8	19	4	2	2	6	3
千葉市に期待すること	19	9	2	3	14	2	14	3	6	16
合計	36	16	6	11	33	6	16	5	12	19

千葉市企業動向調査（第 20 回/2026 年度第 2 回）の概要

発 行:千葉市経済農政局経済部経済企画課
〒260-8722 千葉市中央区千葉港 1 番 1 号
電話:043-245-5359 FAX:043-245-5558

本報告書の詳細は、市ホームページにてご覧いただけます。